

## 抗体マスク15万枚贈る 京都府に開発・製造2社

ダチョウの卵から作ったインフルエンザウイルス抗体マスクを開発・製造する「オーストリッチファーマ」(京都府精華町)と「クロシード」(福岡県)が京都府に抗体マスク15万枚(5千万円相当)を寄贈し、府は3日、京都市上京区の府庁で感謝状を贈った。



感謝状を贈られる辻社長(中央)と塚本教授(左端)＝京都市上京区・府庁

2社は、猛威を振るう鳥インフルエンザや新たなインフルエンザの発生の際に役立ててもらうため、地域貢献の一環で寄付した。府は一般用マスク156万枚、医療関係者ら現場従事者向け高機能マスク4万枚を備蓄しており、今回の15万枚も加えて保管する。

この日は、ファーマ代表の塚本康浩府立大生命環境科学研究科教授とクロシードの辻政和社長が山内修一副知事から感謝状を受け取った。

塚本教授は「より安全なマスクを身に着け、防疫活動などに取り組んでほしい」と話した。

【2011年02月03日 22時53分】